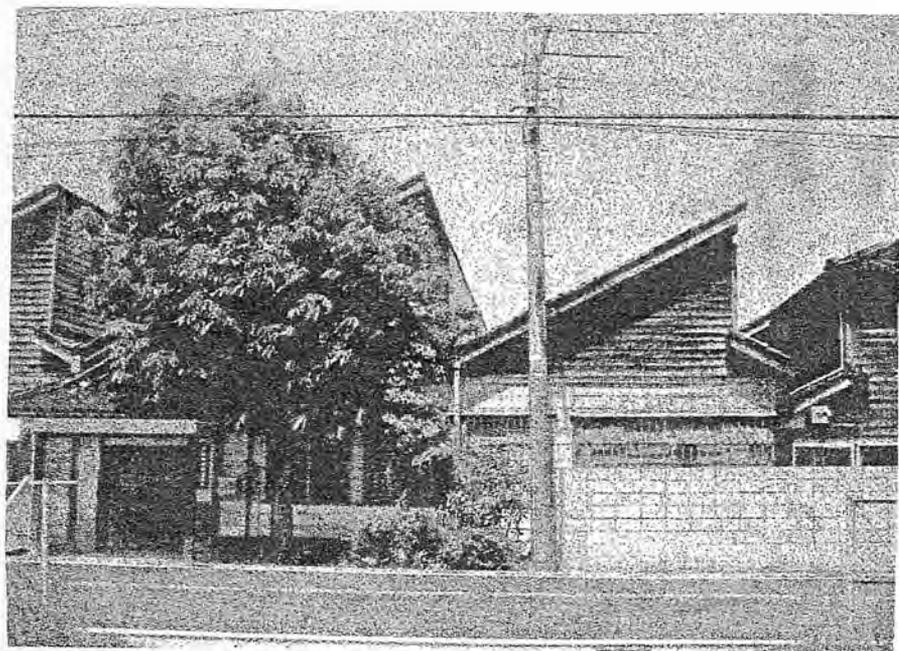


西側を行つて、岡田さんの工場まで来ると寂しくなってしまうのは私人ではないと思う。

明治四十年に、吉岡さんが羽二重を力織機で織り始め、また史料によれば電灯もつき始めてから、約一世紀、機音の聞こえない事がなかった、福島町の並みも、機音の無い静かな町になつてしまった。

岡田さんの工場は、現在、動いている唯一の鋸形の工場の一つではなからうか。



福島の何処に行つても機音が聞こえ、福江・江の島・釜屋の三村が合併して、新しく根上村が誕生してからの伝統が、時の流れとは言え、往時茫々の感を禁じ得ない。

福嶋出村について

明治二十年（一八八七）、歩兵第七連隊作成の、加賀近傍之図と題した、1万分の一の地図がある。

吉原村との境に、福嶋出村と記されている、西川の流れの東に書いてあるが、何方か知らないだろうか。

吉原村が、現在地に村立てをしたのは、明治末年の頃であり、熊田神社の建設の明治四十三年であった。

現在の土地を、条里に区画して、籤を引いて夫々の住宅を決めた時代の以前で、吉原村は熊田川の岸で、八幡神社と村落をつくっていた時間のことである。

福島の東側を南に歩く

青山のお菓子屋さんを先ず思い出す、町会議員の青山さんの父親が私の兄と同級生で、遠かったがお菓子を買いに行った。

もう一軒の青山は、私の同級生で、六年間皆出席で褒美を貰った。